

平成 27 年 9 月

【 学校の原子力防災－チェックリスト 】

福井大学附属国際原子力工学研究所

原子力防災・危機管理部門長 教授／安田 仲宏

福井大学附属国際原子力工学研究所の原子力防災・危機管理部門では、行政と共に原子力防災体制構築に向けた取組みを行っています。国の体制の変更に伴い、福井県では平成 26 年 8 月に、県内の学校の原子力災害時避難計画を作成しました。

この避難計画には、屋内退避や広域避難についての計画が盛り込まれています。計画に実効性をもたせるためには、各学校で訓練がなされなければなりません。訓練を実行に移すために学校の先生方の理解を促進することが必要です。このため、平成 27 年 8 月 10 日に文科省・福井県教育委員会主催「平成 27 年度防災教室講習会Ⅱ（原子力防災）」が開催されました。

このチェックリストは、研究所の一連の取組みにより学生が考案したものです。あらかじめ参加者に回答していただくことで、演者は、この結果に基づき講演の中で強調すべき点を明らかにすることができます。この度、このチェックリストと回答結果を公表して、活用していただくことになりました。

今後、自治体や学校において活用され、それぞれの地域において原子力防災体制が進むことを期待します。

なお、平成 27 年 8 月 24 日には、敦賀市が市内の保育園と幼稚園に対して「原子力災害時を想定した避難訓練の実施に伴う説明会」を行いました。これは先のチェックリストを修正して用いております。

原子力防災（学校）チェックリスト 集計結果報告

- 対 象：文科省・福井県教育委員会主催
「平成 27 年度 防災教室講習会Ⅱ（原子力防災）」参加の
学校・教育関係者
- 実施日時：平成 27 年 8 月 10 日
- 実施場所：公益財団法人 若狭湾エネルギー研究センター
- 回 答 数：1 7 7 枚

原子力防災チェックリスト（学校）

作成：福井大学 安田仲宏

【放射線】

・放射線と放射性物質の違いが分かる	Yes	No
・被ばくと汚染の違いが分かる	Yes	No
・我々は普段も外部被ばくしている	Yes	No
・我々は普段も内部被ばくしている	Yes	No
・普段の放射線量を大体把握している	Yes	No
・放射線量の情報を得る方法を知っている	Yes	No
・学校で生徒に放射線について教えている	Yes	No
・放射線や原子力防災の知識を得るために大学などの支援が必要	Yes	No
・教職員も放射線測定器の取扱いができるようになるべき	Yes	No

放射性物質が拡散した後

・車内よりもコンクリートの建物のほうが遮蔽効果が高い	Yes	No
・こどもの甲状腺を守る方法としてマスクが有効である	Yes	No
・安定ヨウ素剤の役割を知っている	Yes	No
・緊急被ばく医療に対応できる病院・医師を知っている	Yes	No

【防災一般】

・どこから情報を得ればよいか知っている	Yes	No
・教員の役割分担ができています	Yes	No
・教職員・生徒の安否確認・連絡方法を確立している	Yes	No
・学校に対する地域の方々の応援体制がある	Yes	No
・保護者への連絡手段を確立している	Yes	No
・電話が使えない場合を想定している	Yes	No
・生徒の引き渡し訓練を定期的に行っている	Yes	No
・避難行動などに関し、地域の方々と話をする場がある	Yes	No
・学校で原子力防災について検討を始めている	Yes	No
・防災教育を授業に取り入れている	Yes	No
・状況を生徒や保護者へ説明するための言葉を準備している	Yes	No
・生徒が学外にいるとき（登下校など）の対応を準備している	Yes	No
・同僚に原子力防災に興味のある教員がいる	Yes	No
・地域の学校間で情報交換など連絡が取れる準備がある	Yes	No

【PAZ 地域/UPZ 地域】

・自分の学校がどの地域に区分されるかを知っている	Yes	No
・事故発生からどのタイミングで避難するか知っている	Yes	No
・生徒がどの地域から通っているかを知っている	Yes	No
・県内・県外の避難場所・方法を把握している	Yes	No

【さらに外側の地域】

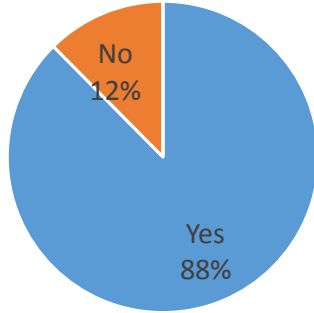
・学校が避難所指定を受けていることを知っている	Yes	No
・地域と連携し避難所開設の準備や訓練をしている	Yes	No
・避難者を受け入れるためにも放射線の知識が必要である	Yes	No

原子力防災（学校）チェックリスト*集計結果

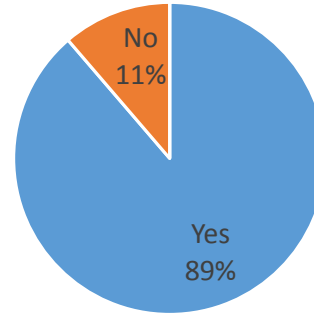
平成27年8月10日開催の、文科省・福井県教育委員会主催「平成27年度 防災教室講習会Ⅱ（原子力防災）」にて回答のあった177枚を集計。参加者は福井県内の学校関係者。

【放射線】

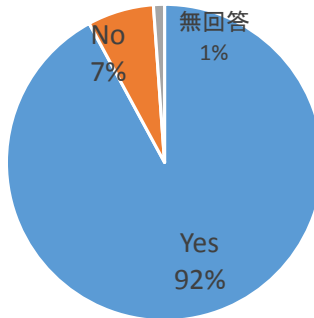
・放射線と放射性物質の違いが分かる



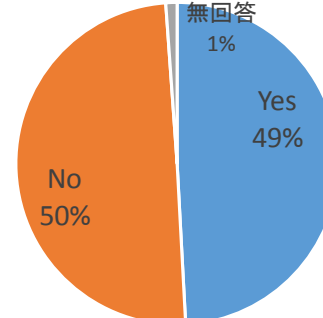
・被ばくと汚染の違いが分かる



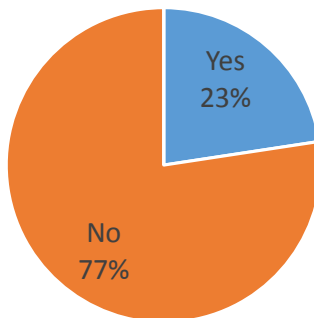
・我々は普段も外部被ばくしている



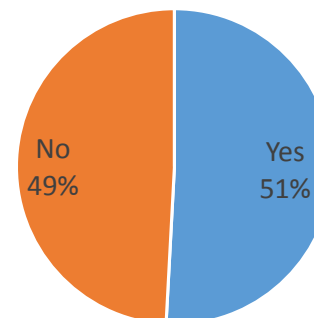
・我々は普段も内部被ばくしている



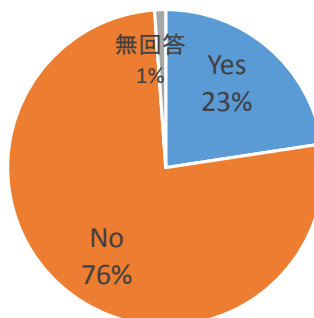
・普段の放射線量を大体把握している



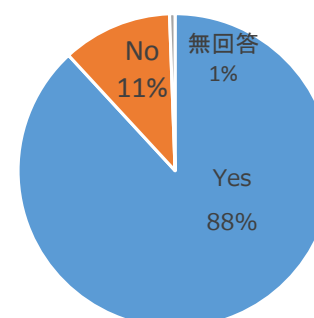
・放射線量の情報を得る方法を知っている



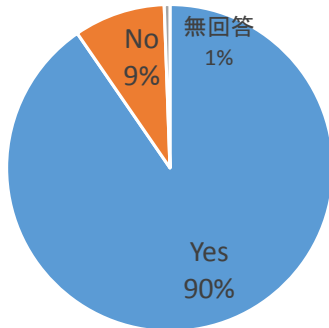
学校で生徒に放射線について教えている



・放射線や原子力防災の知識を得るために大学などの支援が必要

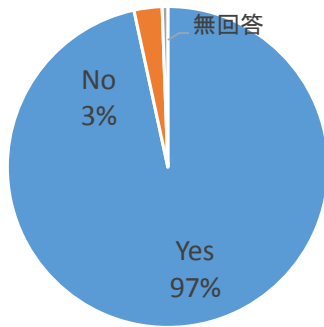


・教職員も放射線測定器の取扱いができるようになるべき

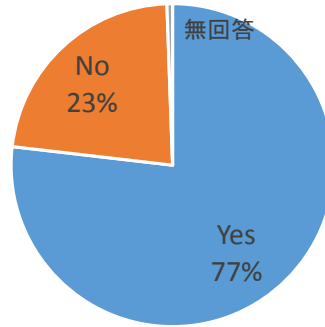


放射性物質が拡散した後

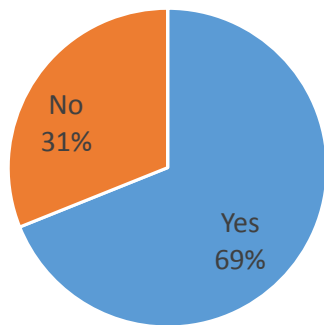
・車内よりもコンクリートの建物のほうが遮蔽効果が高い



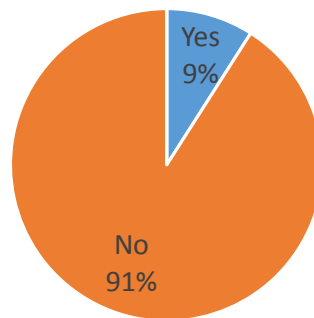
・子どもの甲状腺を守る方法としてマスクが有効である



・安定ヨウ素剤の役割を知っている

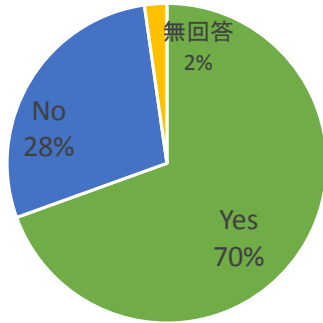


・緊急被ばく医療に対応できる病院・医師を知っている

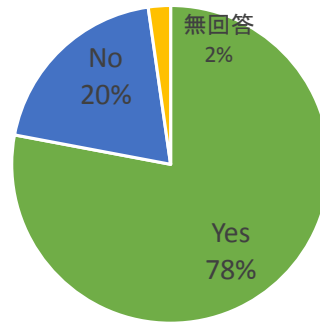


【防災一般】

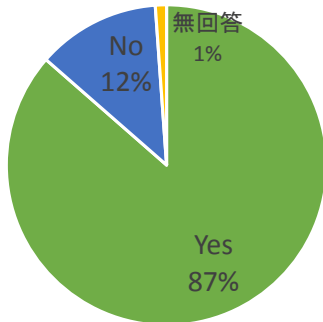
・どこから情報を得ればよいか知っている



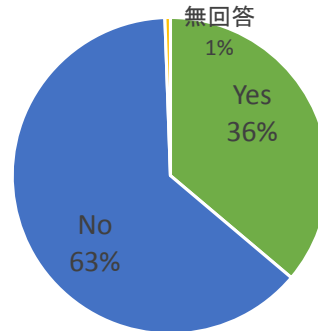
・職員の役割分担ができています



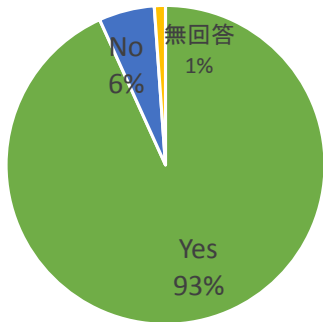
・教職員・生徒の安否確認・連絡方法を確立している



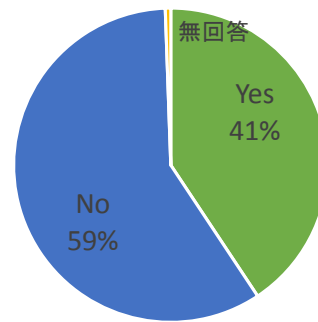
・学校に対する地域の方々への応援体制がある



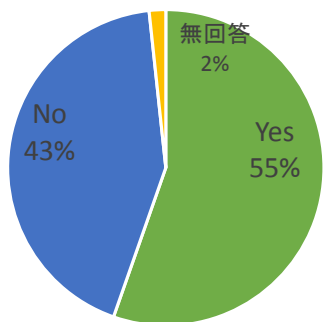
・保護者への連絡手段を確立している



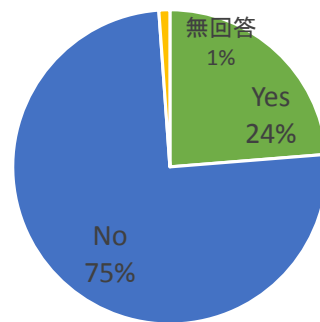
・電話が使えない場合を想定している



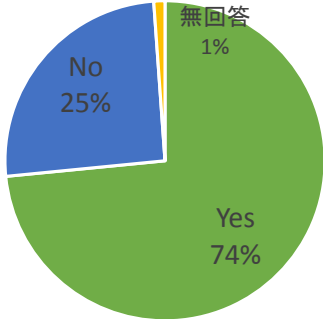
・園児の引き渡し訓練を定期的に行っている



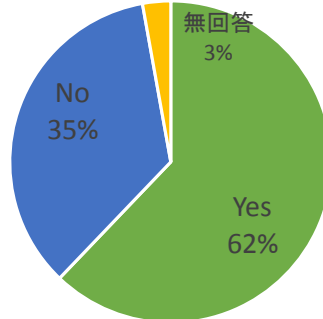
・避難行動などに関し、地域の方々と話をする場がある



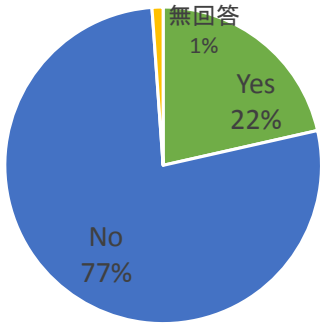
・学校で原子力防災について検討を始めている



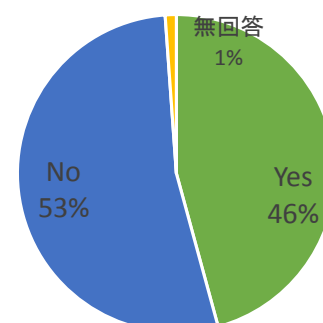
・防災教育を授業に取り入れている



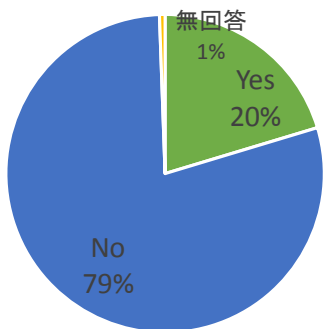
・状況を生徒や保護者へ説明するための言葉を準備している



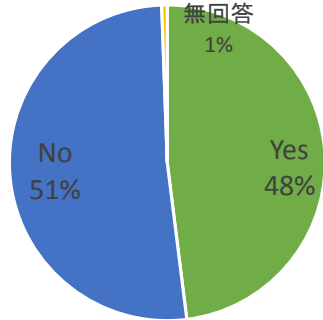
・生徒が学外にいるとき（登下校など）の対応を準備している



・同僚に原子力防災に興味のある職員がいる

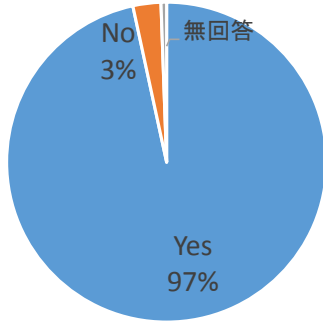


・地域の学校間で情報交換など連絡が取る準備がある

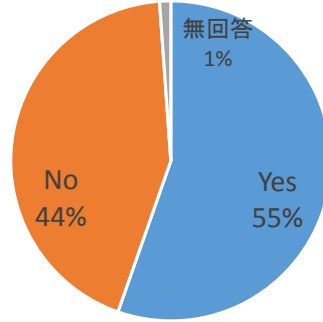


【PAZ地域/UPZ地域】

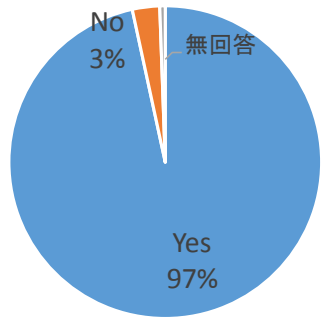
・自分の学校がどの地域に区分されるかを知っている



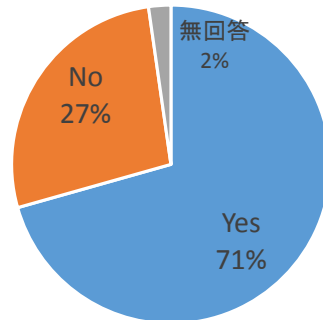
・事故発生からどのタイミングで避難するか知っている



・生徒がどの地域から通っているかを知っている

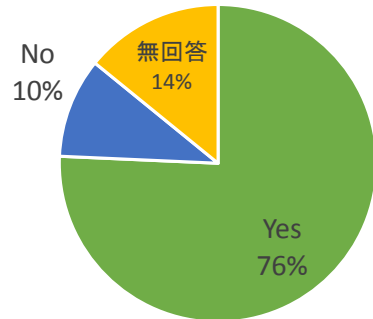


・県内・県外の避難場所・方法を把握している

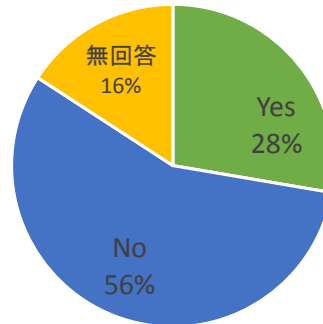


【さらに外側の地域】

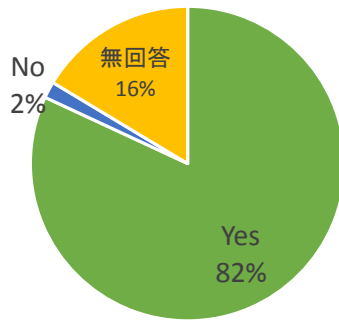
・ 学校が避難所指定を受けていることを
知っている



・ 地域と連携し避難所開設の準備や
訓練をしている



・ 避難者を受け入れるためにも放射線の
知識が必要である



原子力防災(保育園・幼稚園) チェックリスト 集計結果報告

- 対 象：敦賀市主催 「原子力災害時を想定した避難訓練の実施に伴う
説明会」参加の市内保育園、幼稚園および児童養護施設園長など。
- 実施日時：平成 27 年 8 月 24 日
- 実施場所：敦賀市防災センター
- 回 答 数：19 枚

原子力防災チェックリスト（保育園・幼稚園）

作成：福井大学 安田仲宏

【放射線】

・放射線と放射性物質の違いが分かる	Yes	No
・被ばくと汚染の違いが分かる	Yes	No
・我々は普段も外部被ばくしている	Yes	No
・我々は普段も内部被ばくしている	Yes	No
・普段の放射線量を大体把握している	Yes	No
・放射線量の情報を得る方法を知っている	Yes	No
・保護者と職員合同で勉強会をする必要がある	Yes	No
・放射線や原子力防災の知識を得るために大学などの支援が必要	Yes	No
・職員も放射線測定器の取扱いができるようになるべき	Yes	No

放射性物質が拡散した後

・車内よりもコンクリートの建物のほうが遮蔽効果が高い	Yes	No
・こどもの甲状腺を守る方法としてマスクが有効である	Yes	No
・安定ヨウ素剤の役割を知っている	Yes	No
・緊急被ばく医療に対応できる病院・医師を知っている	Yes	No

【防災一般】

・どこから情報を得ればよいか知っている	Yes	No
・職員の役割分担ができています	Yes	No
・職員・生徒の安否確認・連絡方法を確立している	Yes	No
・保育園・幼稚園に対する地域の方々の応援体制がある	Yes	No
・保護者への連絡手段を確立している	Yes	No
・電話が使えない場合を想定している	Yes	No
・園児の引き渡し訓練を定期的に行っている	Yes	No
・避難行動などに関し、地域の方々と話をする場がある	Yes	No
・保育園・幼稚園で原子力防災について検討を始めている	Yes	No
・防災教育を授業に取り入れている	Yes	No
・状況を生徒や保護者へ説明するための言葉を準備している	Yes	No
・生徒が学外にいるとき（登下校など）の対応を準備している	Yes	No
・同僚に防災・原子力防災に興味のある職員がいる	Yes	No
・地域の保育園・幼稚園で情報交換など連絡が取れる準備がある	Yes	No

【原子力防災関連】

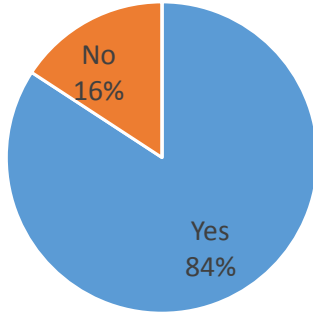
・学校がどの区域（PAZ・UPZ）に区分されるかを知っている	Yes	No
・事故発生からどのタイミングで避難するか知っている	Yes	No
・園児がどの地域から通っているかを知っている	Yes	No
・県内・県外の避難場所・方法を把握している	Yes	No
・保育園・幼稚園が避難所指定を受けていることを知っている	Yes	No
・地域と連携し避難所開設の準備や訓練をしている	Yes	No
・避難者を受け入れるためにも放射線の知識が必要である	Yes	No

原子力防災（保育園・幼稚園）チェックリスト*集計結果

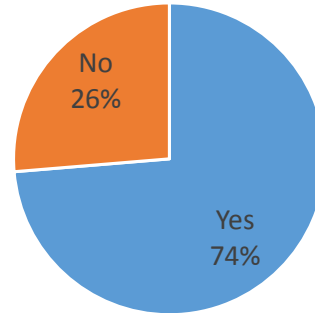
平成27年8月24日開催の「原子力災害時を想定した避難訓練の実施に伴う説明会」にて回答のあった19枚を集計。
参加者は、福井県敦賀市内保育園、幼稚園および児童養護施設園長など。

【放射線】

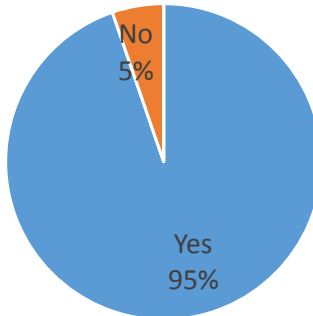
・放射線と放射性物質の違いが分かる



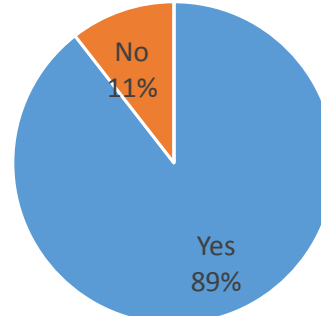
・被ばくと汚染の違いが分かる



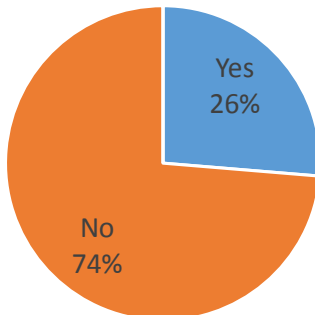
・我々は普段も外部被ばくしている



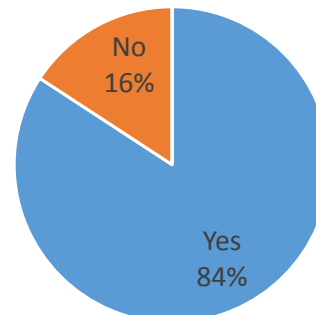
・我々は普段も内部被ばくしている



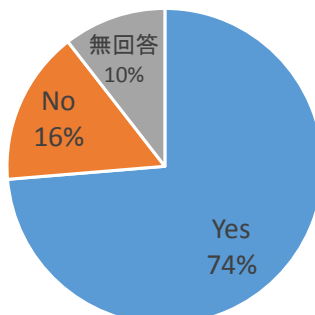
・普段の放射線量を大体把握している



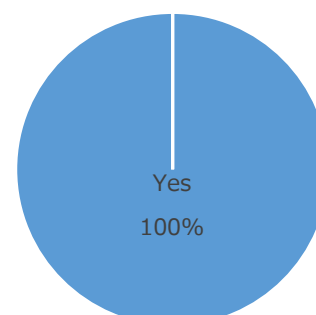
・放射線量の情報を得る方法を知っている



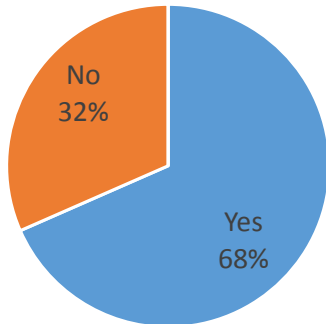
・保護者と職員合同で勉強会をする必要がある



・放射線や原子力防災の知識を得るために大学などの支援が必要

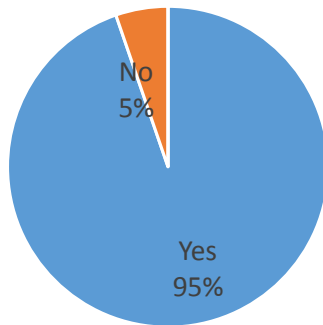


・職員も放射線測定器の取扱いができるようになるべき

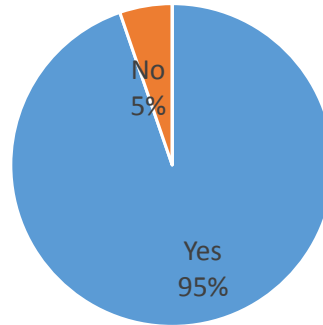


放射性物質が拡散した後

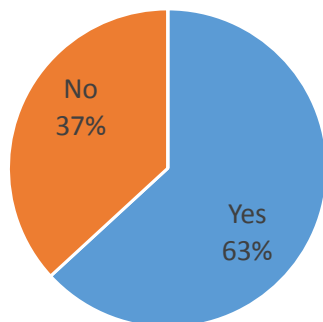
・車内よりもコンクリートの建物のほうが遮蔽効果が高い



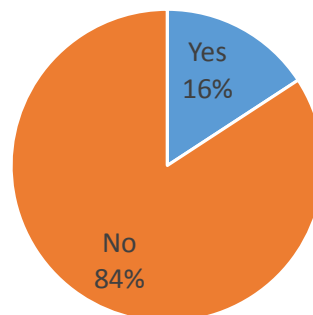
・こどもの甲状腺を守る方法としてマスクが有効である



・安定ヨウ素剤の役割を知っている

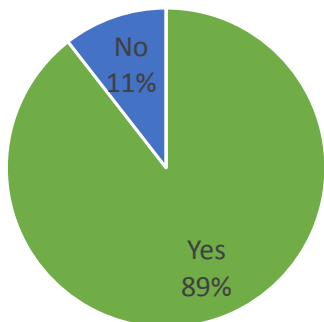


・緊急被ばく医療に対応できる病院・医師を知っている

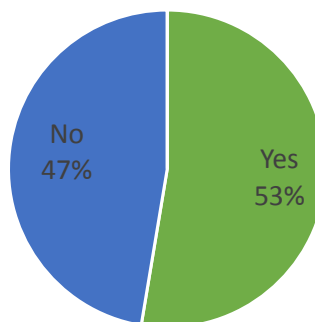


【防災一般】

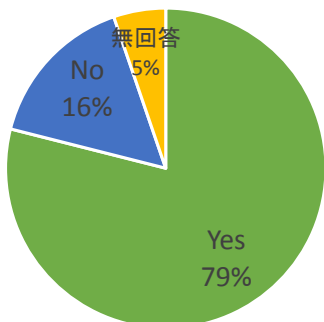
・どこから情報を得ればよいか知っている



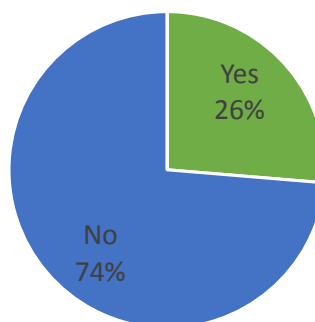
・職員の役割分担ができている



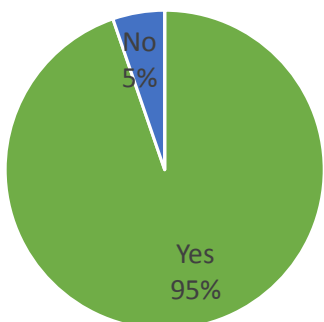
・職員・生徒の安否確認・連絡方法を確立している



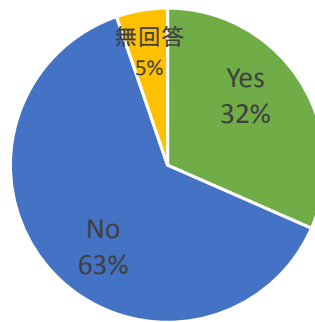
・保育園・幼稚園に対する地域の方々の
応援体制がある



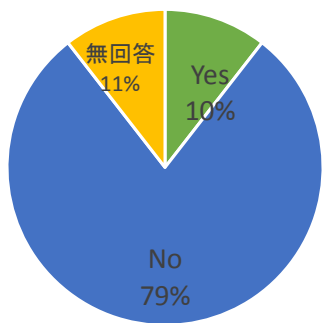
・保護者への連絡手段を確立している



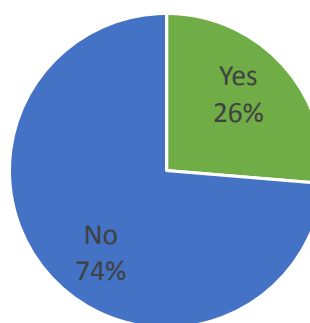
・電話が使えない場合を想定している



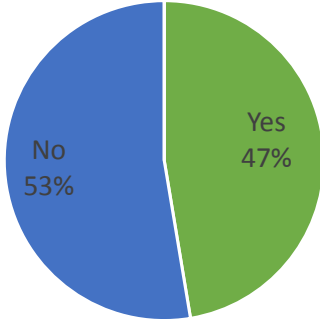
・園児の引き渡し訓練を定期的に行っている



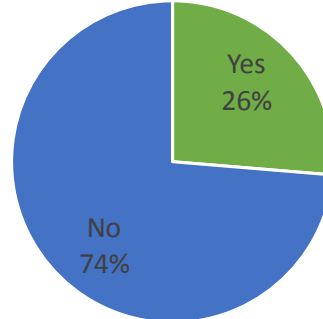
・避難行動などに関し、地域の方々と
話をする場がある



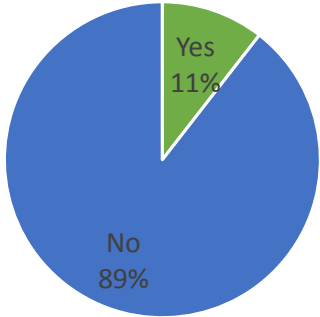
・ 保育園・幼稚園で原子力防災について
検討を始めている



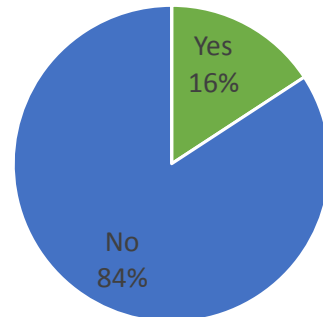
・ 防災教育を授業に取り入れている



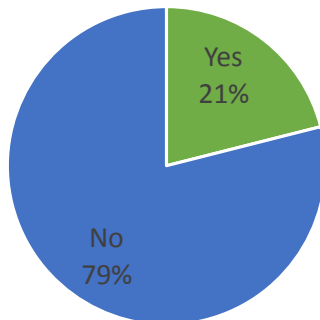
・ 状況を生徒や保護者へ説明するための
言葉を準備している



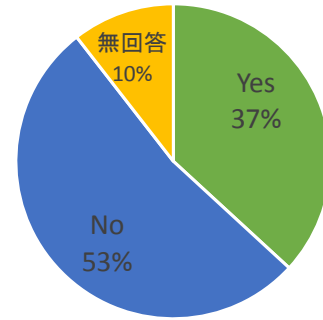
・ 生徒が学外にいるとき（登下校など）の
対応を準備している



・ 同僚に防災、原子力防災に興味のある
職員がいる

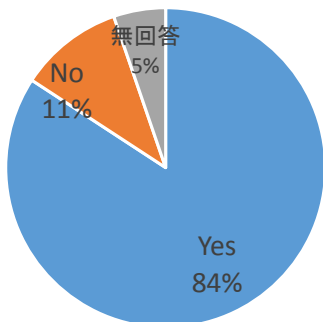


・ 地域の保育園・幼稚園で情報交換など
連絡が取る準備がある

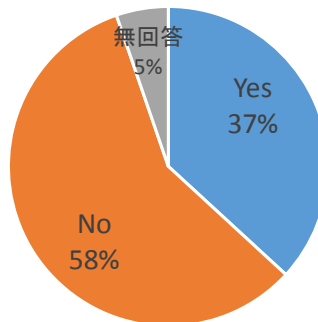


【原子力防災関連】

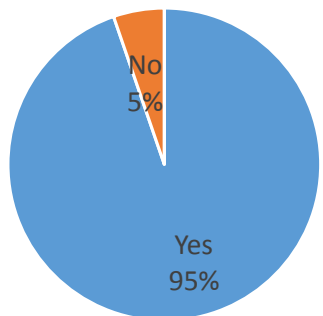
・自分の学校がどの地域に区分されるかを
知っている



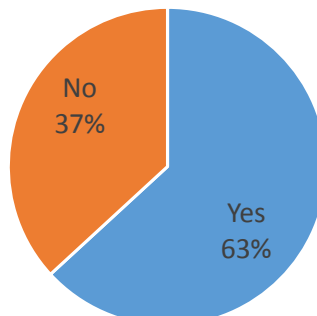
・事故発生からどのタイミングで避難するか
知っている



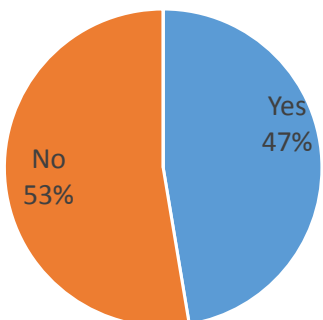
・園児がどの地域から通っているかを知っている



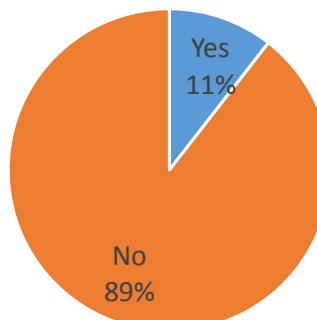
・県内・県外の避難場所・方法を把握している



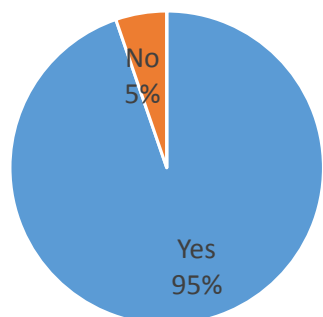
・保育園・幼稚園が避難所指定を受けていることを
知っている



・地域と連携し避難所開設の準備や
訓練をしている



・避難者を受け入れるためにも放射線の
知識が必要である



【まとめ】

○放射線

- ・先生方への放射線知識普及が必要。特に、普段の放射線量に関すること、情報の入手の仕方は、災害時に対応する場合に実務上、必須の知識である。
- ・放射線測定器の取扱いができるようにという希望、知識普及のため大学などへの期待が大きく、今後、地域の大学として、これらの声に応えていく必要がある。

○放射性物質が拡散した後

- ・放射線から身を守る方法、ヨウ素剤の役割などの知識普及、医師との連携を進める必要がある。

○防災一般

- ・学校が孤立せぬように、学校間連携、地域との連携を進める必要がある。
- ・興味を持っていただける先生方を核に、授業モデルや連携モデルを創出し、生徒や保護者に状況を伝える準備が必要。ここにも地域の大学の役割が存在する。